

# 中国語母語話者による日本語のデフォルトアクセントパターン習得\*

## Acquisition of Japanese Default Accent Pattern by Chinese L1 Speakers

範 雯婷, 川崎 貴子, 田中 邦佳

Fan Wenting, Takako Kawasaki, Kuniyoshi Tanaka

法政大学

Hosei University

kawasaki@hosei.ac.jp

### 概要

新語が発話される場合、そのアクセントパターンは語彙目録に指定されていない。日本語母語話者と上級日本語 L2 学習者はそれぞれどのようなデフォルトアクセントのパターンで新語を発話するのだろうか。本研究では、中国語を母語とする上級日本語学習者のデフォルトアクセントパターンが、日本語母語話者の発話とどのように異なるのかを、無意味語の発話実験を通じて調査した。日本語母語話者の発話では、無意味語の発話に外来語アクセントパターンの適用が見られた。一方、中国語を母語とする日本語 L2 学習者の発話では、4 モーラ語のみならず、3 モーラ語においても平板型アクセントを使用することが分かった。また、中国語母語話者に見られる平板型の適用は撥音を含む語ではやや抑制されるが、日本語母語話者のパターンとは違いが見られ、上級学習者の文法と日本語母語話者の文法との間には違いがあることが分かった。

キーワード: 第二言語習得, 外来語アクセント, アクセント習得, 音韻論

### 1. はじめに

日本語のアクセントは弁別的であり、日本語の語彙を L2 として学ぶ際には、その語のアクセント型も共に学ぶ必要がある。日本語の語彙習得が進み、学習レベルが上がると共に、語のアクセント習得も進むと予想される。たとえば戸田 (1999) の英語・中国語・韓国語母語話者を対象とした日本語の外来語アクセント習得の調査では、学習者のレベルが上がるにつれ、外来語のアクセントのエラーが減少することが示されている。しかし、習得の対象として学ぶモデルが無い新語や無意味語の発話では、上級学習者と日本語母語話者の付与するアクセント型に違いはあるのであろうか。

新語を発話する際、その語のアクセント型は、母語話者の語彙目録には指定されていないが、日本語母語話者は概ね、同じようなアクセントパターンを用いる

ようである。窪菌 (2006) は、新語・無意味語の発話には以下の外来語に見られるアクセント規則が適用される傾向にあると述べている。

**外来語アクセント規則<sup>1</sup>**: 語末から3モーラ目にアクセントを置く。3モーラ目が特殊拍の場合には、その前のモーラにアクセントを置く。

窪菌 (2006) は、この規則によって生み出されるアクセント型は新語・無意味語にも適用される、日本語のいわばデフォルトアクセントであると述べている。また、窪菌 (2006), Kubozono (2015), 秋永・金田 (2014) では、外来語アクセント規則に従ったアクセント型と平板型アクセントが名詞の標準日本語アクセントのほとんどを占めるとのデータを示している。秋永・金田一 (2014) によると、日本語の3モーラの名詞のうち、0型 (平板型) が半数、1型 (頭高型) が4割弱であり、4モーラの名詞の中では、0型 (平板) が7割弱を占めるという (supp. pp.10-12)。

本研究では、日本語の3モーラ、4モーラの無意味語の発話実験を行い、日本語母語話者が未知語に対しどのようなデフォルトアクセント型を使用するのかを調査する。そして、同様の実験を中国人上級日本語 L2 学習者にも行い、デフォルトアクセントパターンは中国語を母語とする L2 学習者の文法においても形成されているのかどうか、また、そのデフォルトパターンは日本語母語話者のものとどのように異なるのかを調査する。

### 2. 方法

#### 2.1 実験参加者

本研究では、日本語を L2 として学ぶ中国語母語話者 8 人、および日本語母語話者 16 人を対象とし、発話実験を行なった。中国語母語話者群の参加者は全て日

本に在住しており、その日本語学習レベルは全て上級（日本語能力試験のN1レベル）であった。

## 2.2 刺激

本実験では参加者による3モーラ、および4モーラの無意味語の発話を録音し、使用されるアクセントパターンを調査した。

実験に使用した無意味語は、合計34語であった。3モーラ語・4モーラ語それぞれに、3つのタイプの語群を設けた。1) 撥音を含む語（撥音語）、2) 拗音を含む語（拗音語）、そして3) 撥音・拗音を含まない語（無標語）、である。1)の撥音語は、特殊拍である撥音とその語内での位置がアクセントパターンに影響するのかを調査するために設けた。2)の拗音語は、拗音は特殊拍ではないが、捨て仮名（「ゃ、ゅ、ょ」など小書きで表記される仮名）がアクセントパターンに影響するかどうかを調査するために設定した。

以下の表1は刺激語タイプごとの語数と例を示したものである。

表1. 無意味語タイプと例<sup>2</sup>

	モーラ数	対象の位置	例	語数
無標語	3モーラ	—	もぬた	5語
	4モーラ	—	けじそな	5語
拗音語	3モーラ	1番目	ひゃわか	2語
		2番目	にきよの	2語
		3番目	せけしゅ	2語
	4モーラ	1番目	りよわさも	2語
		2番目	おみやとま	2語
		3番目	ふもしゅひ	2語
		4番目	こにひきよ	2語
撥音語	3モーラ	2番目	けんう	2語
		3番目	そとん	2語
	4モーラ	2番目	まんすに	2語
		3番目	くむんて	2語
		4番目	ちけきん	2語

外来語アクセント規則に従えば、3モーラ語では3種類全ての語群で1モーラ目にアクセントが置かれることが予想される。4モーラの無標語、拗音語では後ろから3モーラ目、つまり2モーラ目にアクセントが置かれることが予想される。一方、4モーラの撥音語の

うち、2モーラ目に撥音がある語では、特殊拍である撥音の1つ前の1モーラ目にアクセントが置かれ、それ以外の4モーラ撥音語では、2モーラ目にアクセントが置かれることが予想される。

表1に示したように、無標語10語、撥音語10語、拗音語14語の合計34語を刺激語とし、これら34語をキャリア文「ooがある」に埋め込んで刺激文を作成した。作成した文をランダムに並べ替え、Microsoft PowerPointのスライド1枚に5文ずつ並べ、発話リストを作成した。

## 2.3 手順

実験ではPCの画面上に発話リストを呈示した。各参加者が、PowerPointで表示された文を順番に発話し、その音声を収録した。参加者は、それぞれの文を3回ずつ発話した。実験の所要時間は10分程度であった。

## 3. 結果

本研究では、中国語を母語とする上級日本語学習者のデフォルトアクセントパターンが、日本語母語話者のものとどのように異なるのかを調査した。本セッションでは、まず無標語、拗音語、そして撥音語で使用されたアクセントパターンを集計し、結果を提示する。

### 3.1 無標無意味語（無標語）アクセントの比較

まず日本語母語話者と中国語母語話者が無標語発話で使用したアクセント型をまとめたものを、表2として付録に提示した。また、以下の図1は、表2のデータをもとに、日本語母語話者と中国語母語話者の無標語でのアクセント型の使用割合をグラフに表したものである。表およびグラフでは、アクセントの位置を数字で表した。「0」は、語中にアクセント核のない平板型（無アクセント）を、「1」は語頭から1番目のモーラにアクセントがある頭高型を表す。「2」は語頭から2モーラ目にあるアクセントがある中高型を表す。そして、「3」は3モーラ目にアクセントがあることを示し、3モーラ語の場合には、中高型であり4モーラ語の場合は尾高型であることを表す。4モーラ語にのみ現れる「4」は4モーラ目にアクセントがある尾高型を示す。また、本論文中の図、表中のJ、Cはそれぞれ日本語母語話者、中国語母語話者を指す。

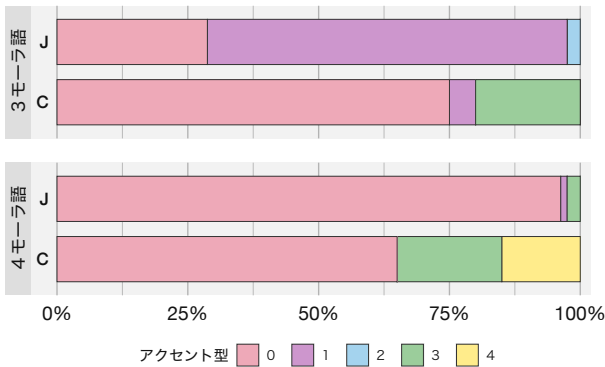


図1. 日本語・中国語母語話者による無標語の発話のアクセント型の割合

無標語発話のアクセントを調査したところ、中国語母語話者の発話では、3モーラ語、4モーラ語共に、平板型（0型）による発話が多かった。一方、日本語母語話者の発話では、3モーラ語では頭高型（1型）の使用が多く、4モーラ語においては平板型が多かった。日本語母語話者の3モーラ無標語のアクセントパターンは、外来語にみられるアクセントパターンと同様であり、窪菌（2006）のいう、いわば日本語のデフォルトアクセントパターンが表れている。4モーラ語においては同様の傾向は見られず、平板型が多く見られたが、4モーラ語に平板化（0型での発話）が起こることはすでに多くの研究にて報告されているところである。

一方、中国語母語話者の発話では、3モーラ語・4モーラ語両方で平板型アクセントの使用が多く、3モーラ語において日本語母語話者の適用するデフォルトアクセント型とは異なっていた。

### 3.2 拗音を含む無意味語アクセントの比較

日本語母語話者と中国語母語話者の拗音語の発話に使用されたアクセント型をまとめたものを、付録の表3に提示した。また、以下の図2、3はそれぞれ3モーラ語、4モーラの拗音語発話にて、日本語母語話者と中国語母語話者が使用したアクセント型の割合を拗音の単語内での位置ごとに表したグラフである。本論文中の図で 2/3 のような表示は対象となる拗音・撥音の語中の位置を表す。例えば 2/3 は3モーラ語の2モーラ目に拗音・撥音が位置することを表している。

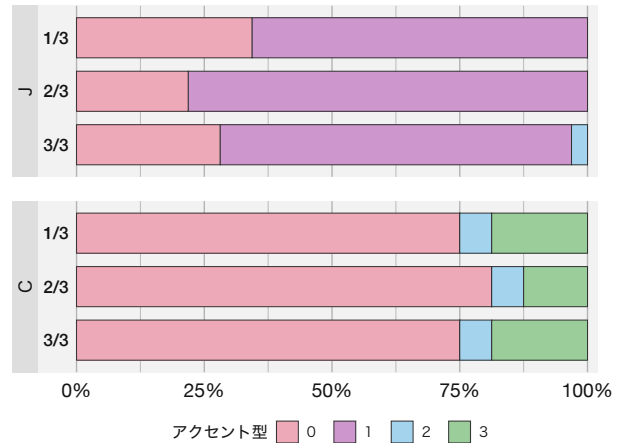


図2. 日本語・中国語母語話者の3モーラ拗音語発話におけるアクセントパターンの割合

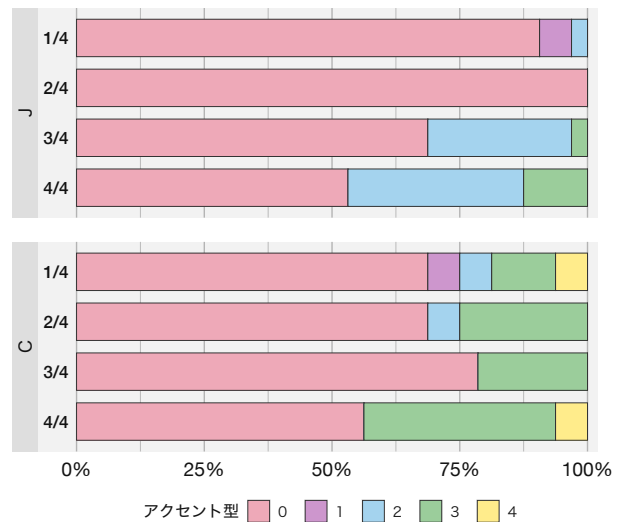


図3. 日本語・中国語母語話者の4モーラ拗音語発話におけるアクセントパターンの割合

拗音語に見られたパターンは、無標語でのパターンとほぼ同様であった。日本語母語話者は3モーラ語発話では1型の頭高型を、4モーラ語は0型の平板型を多く使用していた。一方、中国語母語話者の発話では、3モーラ語と4モーラ語のどちらにおいても平板型が多かった。

### 3.3 撥音語アクセントの比較

次に撥音語発話で使用されたアクセント型の割合をグループごと、またモーラ数ごとにまとめたものを表4として付録に提示した。また、以下の図4、および図5は、それぞれ3モーラ語、4モーラ語の撥音語発話にて日本語話者と中国語母語話者が使用したアクセント型の割合を表したグラフである。

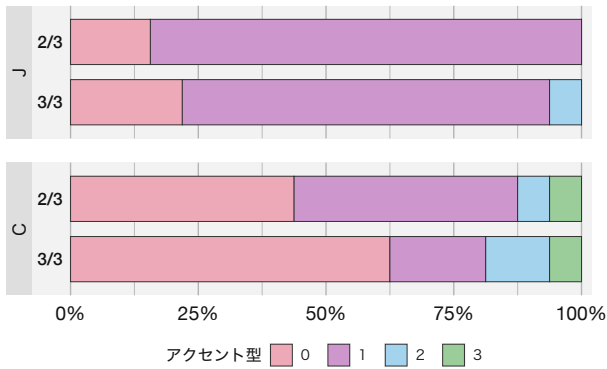


図4. 日本語・中国語母語話者の3モーラ撥音語発話におけるアクセントパターンの割合

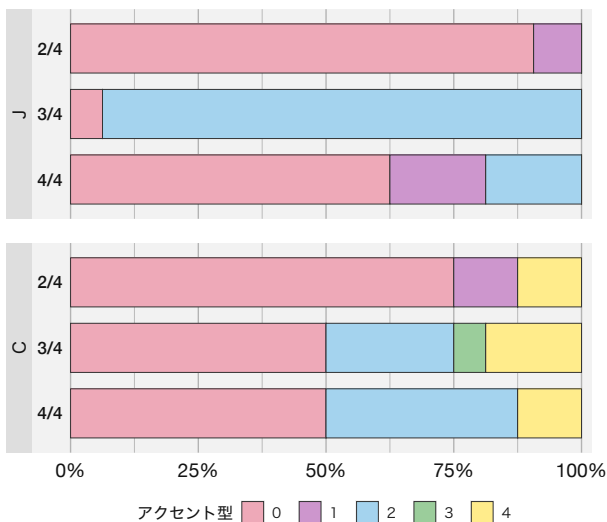


図5. 日本語・中国語母語話者の4モーラ撥音語発話におけるアクセントパターンの割合

日本語母語話者の3モーラの撥音語発話では、頭高型が多かった。しかし、中国語母語話者の3モーラ語発話では、平板型が多かった。一方、中国語母語話者は、2モーラ目に撥音がくる語では、平板型と頭高型の使用が同じ程度見られるものの、日本語母語話者がほぼ頭高型で発話していることを考えると、両者のアクセント型の使用傾向は異なると言える。

4モーラ撥音語のうち、2番目または4番目に撥音がくる語では、日本語母語話者は平板型を多く使用しているが、3モーラ目に撥音がくる語の発話では、外来語アクセント規則に沿った2型のアクセントがほとんどであった。中国語母語話者の4モーラ語発話では全体的に平板型が最も多く、日本語母語話者に見られたパターンとは異なった。

### 3.4 考察

日本語母語話者の無意味語発話においては、3モーラ語では外来語アクセント規則に従い、頭高型のアクセントを用いることがほとんどであった。また、4モーラ語では3モーラ目に撥音を含む語を除き、広く平板型が使用されていた。前述のように日本語の4モーラ名詞では平板型が広く用いられるが、それは最後に軽音節が続く LLLL, HLL の場合であり、3モーラ目に撥音を含む、LHL の音節パターンの語では、平板化が起こりづらいことが窪菌 (2006), Kubozono (2015) などにより指摘されている。日本語母語話者は LHL のパターンにおいてのみ、平板型ではなく外来語アクセント規則に沿ったアクセント型を選択したことが分かる。

中国語母語話者の場合、4モーラ語のみならず、3モーラ語においても平板型アクセントが広く使用された。無標語、拗音語では全体的に平板型アクセントが多く、3モーラ語においても平板型アクセントを使用している点で日本語母語話者と異なった。しかし、撥音を含む語においては、平板型の使用が日本語母語話者に比べると多いものの、3モーラ語での頭高型 (1型)、4モーラ語での中高型 (2型) の使用が増えていた。

中国語母語話者に平板型アクセントの使用が多いのは、日本語の3・4モーラ名詞に平板型が多いため、平板化規則を一般化したことによると考えられる。日本語母語話者の3モーラ無意味語発話や、LHL の4モーラ語では、平板化は抑制されている。一方、中国語母語話者の多くでは平板化の過剰一般化が起こり、広く平板型アクセントが適用されることが分かった。

また、中国語母語話者の発話には、日本語母語話者が選択しないアクセント型も見られた。日本語母語話者の発話はいずれの語タイプにおいても尾高型を選択しなかったが、中国語母語話者の発話には日本語母語話者には見られない尾高型の使用も見られた。このことから、中国人上級日本語学習者においても、内在化されたデフォルトアクセントのパターンは日本語母語話者のものと異なることが明らかになった。

### 4. まとめ

本研究では無意味語の発話実験により、中国語を母語とする上級日本語学習者のデフォルトアクセントパターンが、日本語母語話者のものとどのように異なるのかを調査した。その結果、日本語母語話者は3モーラ

語では外来語アクセント規則に従った頭高型アクセントを、LHL 以外の4モーラ語では平板型を使用したのに対し、中国語母語話者は3モーラ、4モーラ語の全ての語タイプで平板型を広く使用した。このように、日本語母語話者と中国語を母語とする上級日本語学習者の無意味語に対するデフォルトアクセントのパターンには明らかな違いがあることが明らかになった。

## References

秋永一枝・金田一春彦,(2014) 新明解日本語アクセント辞典第2版, 三省堂書店.

Kubozono, Haruo, (2015) “Chapter 8. Loanword phonology” in H. Kubozono ed., *Handbook of Japanese Phonetics and Phonology*. pp. 313-361.

窪蘭晴夫,(2006) アクセントの法則, 岩波書店.

McCawley, James D., (1968) *The Phonological Component of a Grammar of Japanese*, The Hague, Mouton.

戸田貴子,(1999) “日本語学習者による外来語使用の実態とアクセント習得に関する考察—英語・中国語・韓国語話者の会話データに基づいて” *文藝言語研究 言語篇/筑波大学文芸・言語学系* 36, pp.89-111.

\* 本研究の実施にあたっては日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C) (「L2習得過程における音韻処理変化と知覚スペースの再調整」課題番号: 18K00848) の助成を受けた。

1. McCawley (1968) は“place accent on the syllable containing the third from the last mora” (McCawley, 1968: 134) と提唱し、外来語のアクセントは後ろから3モーラ目を含む音節に付与されると提唱した。
2. 表1において、「対象の位置」とは、拗音・撥音が現れる位置が単語の何モーラ目かを表したものである。無標語においては、対象モーラは存在しないので、「-」と示した。また、例語の中で対象となる拗音・撥音は、太字で表した。

表2. 中国語母語話者と日本語母語話者による無標無意味語発話におけるアクセントパターンの使用割合

		発話のアクセント型									
モーラ数	0(平板型)		1(頭高型)		2(中高型)		3(中高型)		4(尾高型)		
	C	J	C	J	C	J	C	J	C	J	
3	75.00%	28.75%	5.00%	68.75%	0.00%	2.50%	20.00%	0.00%			
4	65.00%	96.25%	0.00%	1.25%	0.00%	0.00%	20.00%	2.50%	15.00%	0.00%	

表3. 中国語母語話者と日本語母語話者による拗音語発話におけるアクセントパターンの使用割合

		発話のアクセント型									
モーラ数	拗音の位置	0(平板型)		1(頭高型)		2(中高型)		3(中高型)		4(尾高型)	
		C	J	C	J	C	J	C	J	C	J
3	1	75.00%	34.38%	0.00%	65.63%	6.25%	0.00%	18.75%	0.00%		
	2	81.25%	21.88%	0.00%	78.13%	6.25%	0.00%	12.50%	0.00%		
	3	75.00%	28.13%	0.00%	68.75%	6.25%	3.13%	18.75%	0.00%		
4	1	68.75%	90.63%	6.25%	6.25%	6.25%	3.13%	12.50%	0.00%	6.25%	0.00%
	2	68.75%	100.00%	0.00%	0.00%	6.25%	0.00%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	3	78.57%	68.75%	0.00%	0.00%	0.00%	28.13%	21.43%	3.13%	0.00%	0.00%
	4	56.25%	53.13%	0.00%	0.00%	0.00%	34.38%	37.50%	12.50%	6.25%	0.00%

表4. 中国語母語話者と日本語母語話者による撥音語発話におけるアクセントパターンの使用割合

モーラ数 撥音の位置		発話のアクセント型									
		0(平板型)		1(頭高型)		2(中高型)		3(中高型)		4(尾高型)	
		C	J	C	J	C	J	C	J	C	J
<b>3</b>	<b>2</b>	43.75%	15.63%	43.75%	84.38%	6.25%	0.00%	6.25%	0.00%		
	<b>3</b>	62.50%	21.88%	18.75%	71.88%	12.50%	6.25%	6.25%	0.00%		
<b>4</b>	<b>2</b>	75.00%	90.63%	12.50%	9.38%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	12.50%	0.00%
	<b>3</b>	50.00%	6.25%	0.00%	0.00%	25.00%	93.75%	6.25%	0.00%	18.75%	0.00%
	<b>4</b>	50.00%	62.50%	0.00%	18.75%	37.50%	18.75%	0.00%	0.00%	12.50%	0.00%